



錦江湾高校（鹿児島市）

SSH研究に生かす

実践校1年目。新聞を通じて情報を選択する力や活用する力を育て、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校としての課題研究に生かす構えだ。

課題研究では、主体的にテーマを見つける力が求められる。そこで、その前段階として、1年生を対象に関心のある記事についてグループで調べ、壁新聞にまとめる授業を行った。

末吉一穂教諭（28）は

「SNS（会員制交流サイト）から情報を得る機会が多い世代。新聞の多様な情報に触れることで視野が広がり、SSH研究にも深みが出る」と期待する。週に1回、全校で朝の学活の時間に新聞を読む「NIEの日」も設定している。

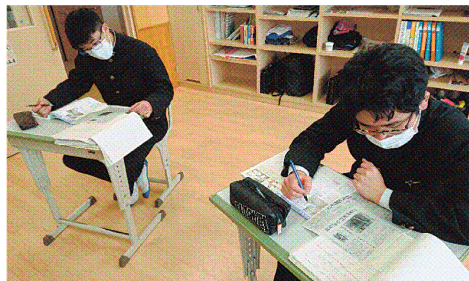
1年高橋康太さんは「同じ記事でも読む人によって視点が違って面白い。自分を振り返る機会になっている」と話した。

（鹿児島彩夏）

かごしま

NIE実践校

新聞記事を読んだ感想をまとめる3年生



鹿児島聾学校（鹿児島市）

語彙力向上を目指す

幼稚部から高等部まで聴覚に障害がある51人が学ぶ。初めて実践校になり、学校玄関ホールに閲覧コーナーを設けた。

新聞を使った授業では表現力や語彙力、思考力向上を図る。小学部は興味を持った記事の語句調べや要約、中学部ははがき新聞づくりに取り組んだ。高等部は記事が提示する社会問題について資料を集めたり、自分の考えをまとめた。3年生は、現代社会で為替や原油高について学んだ。内立元亮祐さんと山縣陸翔さんは「新聞は世の中ので今起きていることが分かり、見出しやグラフが載っているの理解しやすい」という。

記事のキーワードや調べた内容を分類し、系統立てることでより理解を深める。NIE担当の御鍵宗充教諭（40）は「実践を積み重ねて教員間で共有していきたい」と話した。（小手川美子）